

松操園にて桜の記念植樹を行いました

本学園創立140周年を記念して、新校舎南側に位置する松操園に植樹された桜の苗木は、着々と生長し続け、今年も可憐な花を咲かせました。昨年度に植樹した桜の苗木も花を咲かせ、順調に育っています。

この苗木は、仙台大学が所在する町、一目千本桜で有名な柴田町船岡の「柴田町さくらの会」から寄贈されたもので、毎年、創立記念日に植樹しています。今年も5月25日の午後、生徒会本部役員の方々の手により、法人、高校職員の立ち会いの下、3本の苗木が植樹されました。



立花生徒会長が植樹



校長先生がソメイヨシノについて解説



140周年記念の桜

朴澤理事長から「桜の縁(えにし)」について、あいさつ





【初代校長 朴澤三代治先生】

【五代校長 朴澤綾子先生】像



旧生徒通用門



旧生徒通用門脇に設置の
しょうとくひ
【頌徳碑】



【本学園と桜の歴史】

本学園創始者の朴澤三代治先生は、自然を愛でる心豊かな方で、榴ヶ岡公園で、毎年、観桜の会を催すような人格者でした。「頌徳碑」(写真右上)は、その教え子たちが師の業績を称え榴ヶ岡公園に建立したものです。昭和42年、一目千本桜の柴田町に仙台大学を開設し、体育教師の養成を開始したのも、何かの縁が感じられます。



一目千本桜(柴田町)

創立140周年の節目の年に、船岡と川平、仙台大学と明成高校をより強固につなぐ桜の苗木が、柴田町から川平の地にもたらされました。「高^め大接続」の象徴として、桜の花を愛でる伝統が今、育まれています。



〈昨年度植樹した桜 ↑〉



記念植樹に参加した皆様